

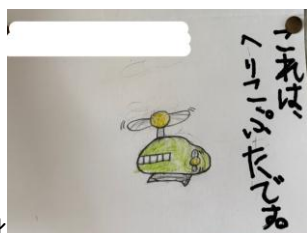
1 年 説明文：「つぼみ」～「活用」編～

授業の導入で、「マリーゴールドのつぼみ」の写真とそれについて説明する文も準備しました。

このとき、あえて説明文の中に「問い」を含めずに提示したところ、子どもから「クイズがないよ!」という声があがりました。そこで、「クイズの文はいるかな?」と問いかけ、さらに「クイズを出されるとどんな気持ちになる?」と問い返すことで、子どもたちは“問い”があることで興味を引かれたり、考えたくなったりする気持ちが生まれることに気づくことができました。



表紙



中身

さらに、今度は子どもたち自身に問いをつくる楽しさや効果を実感してもらうため、「問いー答えブック」づくりに取り組みました。表紙には「これは、なんでしょう？」という問いを書き、中には「これは〇〇です。」という答えとイラストを描く構成にしました。また、なかには裏面に答えの詳しい説明を加え、「なぜそうなるのか」「どんな特徴があるのか」など、より深い伝え方を工夫する姿も見られました。

活動の最後には「クイズ大会」を実施し、一人ひとりが友達に向けてクイズを出しました。出題者は「これは、なんでしょう?」「これは、〇〇です。」、回答者は「それは〇〇ですか?」など、授業で学んだ話型を意識しながらやり取りを行いました。



子どもたちは友達とのやり取りを楽しみながら、自分の問いで相手を引きつける面白さを実感することができました。この一連の取り組みを通して、説明文の学習への興味を高めるとともに、言葉を使って伝える力・問う力の土台づくりにつながったと感じています。